

制作
真法会研究室

真法会研究室

Shimpoukai-kenkyushitsu

研究室案内
2021

心と力のある法曹になるために －新しい制度における真法会の強み－

法曹になることだけを目的に学ぼうとする人は、他の道に進んだ方がよほど幸せでしょう。学生時代は、目の前の試験ではなく、その先にある未来、すなわち、君たちが心と力のある法曹として永く人生を歩んでいくためにあることを忘れてはなりません。

では、学生時代には一体何をすべきか。それは、強い意志に支えられたゆるぎない向上心を持って、物事を熟考する姿勢と、試練を乗り越える胆力とを鍛えることです。法律家になって本当に良い仕事をするために、これらの要素が極めて重要なのです。

とはいっても、こうした内面の強さは、一朝一夕に鍛えられるものではありませんし、自分一人の力で身につくものでもありません。多くの人たちと交流し、議論し、さらに自分の内面に立ち返って熟慮する、といった過程を繰り返すことにより、少しずつ、しかし着実に、足腰の強い実力として醸成されていくのです。

これまで多くの真法会員は、学生時代にこうしたトレーニングを重ねることにより、心と力のある法曹となって、社会の各方面で活躍してきました。そしてこのことは、法曹になるまでの期間短縮を図ろうとする新しい法曹養成制度の下においてこそ、従来にも増して大きな価値を発揮するものといえましょう。

一貫教育コースを始めとした新しい法曹養成制度は、単なる早期合格が目的ではありません。早期に合格し、かつ、社会の一隅であっても地に足の付いた着実な社会的存在となることが世の人々から求められているのです。合格が早いだけでその後の伸びしろを持たない残念な実例を、私はこれまで、数多くの合格者を見てきました。

真法会の強みは、まず充実した学習環境、学習制度にあります。室員は学年を越え、日夜議論し合いながら法律学習に励みます。さらに、司法試験合格者や法科大学院合格者による後輩指導が年間カリキュラムに沿って実施されています。このカリキュラムは決してマンネリ化することなく、先輩弁護士たちによって都度ブラッシュアップされています。

これらの充実した学習環境、研究室運営を支えるのは、室員相互間、室員と先輩会員間のつながりの深さです。これを象徴するのが毎年実施されている様々な行事です。中でも裁判所、検察庁、弁護士事務所訪問は、実務家の生の姿に触れることができる貴重な体験となります。これらを通して、室員は漠然とした自分の法律家像を明確なものとし、より一層日々の勉強に磨きをかけています。

真法会は、こうした環境を十分に生かしてお互いに高めあっていく文化を今も大事にしつつ、時代に即して明るく開かれた学生主体の組織を運営しているからこそ、全国的に知られた中央大学随一の学術研究団体であり続けています。



中央大学真法会理事長
(中央大学法科大学院教授・弁護士)

小林明彦

真法会研究室とは

私たち真法会研究室は、炎の塔学研連所属の研究室です。その歴史は長く、今年で創立87周年を迎えます。これまで、法曹界を中心に、政財界、学界などにも多くの優秀な人材を送り出していました。その中には、最高裁判所判事、最高検察庁次長検事、日本弁護士連合会会長など、重要な役職を担った先生方もいます。私たち室員は、多くの偉大な先輩方の姿に刺激を受け、自らの志を常に高く持ち勉学に励んでおります。

現在、真法会研究室の室員数は58名(男29名・女29名)です。在学生は炎の塔内の研究室にて、定席での自学自習や室員間での議論を通じて、互いに切磋琢磨して日々の学習に励んでいます。

2020年度司法試験合格者… 15名



15名

2020年度の司法試験では、**学研連最多**となる15名の合格者を輩出しました。直近5年間での合格者71名という数字も、**全学研連トップ**の成績です。

2020年度予備試験合格者…

2名

2020年度の予備試験において、2名(学部在学中1名)の合格者を輩出しました。真法会研究室では毎年多くの室員が予備試験に合格しています。

当研究室出身の法律家… 約

870名

真法会研究室は今まで、約870名の法曹を輩出しています。実務家である先生方と交流する機会が多くあり、自身の将来像についてイメージを膨らませることができるでしょう。

また、真法会は、法律雑誌『受験新報』において法曹養成講座を開設しています。そこでは、先輩実務家が多数執筆しています。

P1 理事長挨拶

P2 真法会研究室とは

P3 司法試験制度について

P4 カリキュラムゼミ

P5 学習環境

P6 研究室のルール

P7-8 年間行事

P9 合格実績

P10 実務家からのメッセージ

P11 経済的バックアップ

P12 入室試験要綱

P13-14 あとがき

真法会研究室とは P2

司法試験制度

中央大学

中央大学では、令和2年度から新しい法曹コースが始まりました。この法曹コースを利用することで法科大学院と一貫した教育を受け、学部を3年間で卒業することができます。

在学中・後

予備試験

司法試験予備試験は、法科大学院を修了した者と同等の学識を有するかどうかを判定する試験です。

合格者には法科大学院修了者と同じく、司法試験受験資格が付与されます。

学部3年間
在学
法曹コース

学部4年間
在学
法曹コース以外

司法試験

裁判官、検察官、弁護士になる資格を得るための試験です。短答試験と、論文試験があります。

法律家へ

カリキュラムゼミ

段階的に学べる 法律学習の強い味方

初めての法律の勉強に不安を感じている方も多いと思います。

真法会研究室では、司法試験やロースクールに合格した先輩方によるカリキュラムゼミが組まれており、法律を一から段階的に学び、しっかりととした実力を身につけることができます。

また、ゼミの前のアンケートによりチューターへ直接、希望を伝えることもできます。

1年生	2年生	3年生
6月～7月 民法新歓ゼミ	民訴講義ゼミ	民訴論文ゼミ
8月 (合宿) 民法論文ゼミ	憲法論文ゼミ	商法論文ゼミ
8月下旬 刑法講義ゼミ	刑訴講義ゼミ	刑訴論文ゼミ
10月～ 11月 憲法講義ゼミ	商法講義ゼミ	行政法講義 論文ゼミ
11月～ 12月		
12月～ 3月 刑法論文ゼミ	民法・刑法・憲法 答案練習ゼミ	

※ゼミのカリキュラムが変更になる可能性があります。

講義ゼミ

真法会オリジナルのレジュメを使い、基礎的な知識の定着を図るゼミです。

論文ゼミ

問題演習を通じて、論文の書き方を学ぶゼミです。
実際に答案を書くことで、実践力が身につきます。

答案練習ゼミ

論文を書き、先輩に添削してもらうゼミです。1対1の指導で、さらなる力を養います。

1、2年生は原則ゼミには参加してもらいますが、一人ひとりの時間割を考慮した日程でゼミを組むので、バイトやサークルとの両立もできます！

今年度はオンラインでゼミを実施しています！

学習環境

豊かな知識を育む、豊かな環境

共同研究室



真法会研究室の扉を開くと、共同研究室があります。室員はここでわからない箇所についてお互いに議論したり、学習の息抜きとして休憩をとったりします。1年生から4年生まで室員間の交流を深めることができる空間です。

パソコン3台、コピー機、冷蔵庫、電子レンジなどが完備されており設備も充実しています。

中部屋

共同研究室の奥の扉を開くと、中部屋があります。中部屋には冷暖房、加湿器、そして全部で70席ある定席には、1席につき2つのコンセントが完備されています。

真法会研究室に入室すると、1人1つ定席が与えられます。定席は快適な環境で、集中して学習に取り組むことができるようになっています。

蔵書



真法会研究室には書籍や資料が共同研究室と中部屋に合計約1700冊あります。室員はここから判例集や基本書を自由に閲覧し、借りることができます。



研究室の運営

真法会研究室では、入室2年目の室員が研究室の運営を担っています。

法曹をはじめとする多くの先輩方と関わることによって、机の上では得られない貴重な経験をすることができます。法曹や企業人となった多くの先輩方が社会に出て役立ったと言っています！



学生委員長が式典の場で挨拶しています！

登室制度

真法会研究室では、室員が積極的に登室することにより、互いに高め合える環境を作っています。また、3日以上にわたり登室できないときは事前に連絡をすることをルールとしています。



分からないところは先輩に聞いて解決！

共研当番

真法会研究室では、室員が順番に、朝と夕方それぞれ30分程度、研究室の掃除などを行います。これによって、快適な学習環境を確保することができ、室員全体が集中して法律の学習に打ち込むことができます。

室費

真法会研究室では、研究室の快適な環境を維持するため、月に2500円の室費がかかります。

年間行事



※令和元年度の例です。

5月 新歓スポーツ大会

バレー、ドッジボールをして楽しみ、たくさんの先輩・後輩や同期と交流を深めることができる機会です。

8月 夏季合宿

4泊5日の合宿を行います。費用は2万円程度です。合宿はゼミ、自主学習などに集中して打ち込みます。最終日にはBBQ、打ち上げがあり、室員間の交流が深まります。

ロースクールガイダンス

教鞭をとっている先生方や法科大学院在学中の先輩から各学校の紹介や進学へのアドバイスを聞くことができます。

裁判所見学・検察庁見学



9月 創立記念式典

真法会最大の行事であり、普段会うことのできない著名なOB・OGの先輩方と交流できます。

10月 司法試験合格者ガイダンス

その年の司法試験に合格された先輩方から学習方法や心構えについてのアドバイスをいただける貴重な機会です。

12月 忘年会



2月 弁護士エクスターンシップ

3月 卒業生歓送会

お世話になった先輩方の門出を祝います。

裁判所見学

真法会研究室の先輩方が働く裁判所を訪問し、裁判傍聴や施設の見学をします。
室員の感想

自分たちが法律を勉強したその先の姿を具体的にイメージすることができた有意義な行事でした。裁判傍聴では、法曹三者や被告人が、目の前で裁判を行っている姿を見て、緊迫した雰囲気を感じるとともに、自身がこの緊迫感の中で法曹として活躍するんだと改めて身を引き締めることができました。裁判所の見学では、普段は入ることのできない執務室に入らせていただいたりと、とても貴重な体験ができました。このように自分が目指す姿を目の当たりにするのは、法律の勉強では体験できないものであり、法曹になる意思をより強く持つことができました。

(3年 武田遼真)



検察庁見学

真法会研究室の先輩方が働く検察庁を訪問し、検察官の業務についてお話を聞いたり施設を見学します。



室員の感想

検察官についての知識が乏しかった私ですが、検察官の方から取調べなどの業務について詳しい説明をしていただき、実務の具体的なイメージを掴むことができました。また、証拠品保管庫や模擬取調室の見学は検察官の業務を肌で感じることのできる非常に貴重な機会となりました。この訪問を通じて、今後の法律学習のモチベーションが向上しただけでなく、自身の将来の法曹像を形成する上での良い指針となりました。

(3年 佐藤樹)

エクスターんシップ

真法会研究室の先輩方が働く弁護士事務所へのエクスターんシップです。先生のお仕事を間近で見たり実際に手伝いをさせていただいたりすることができます。

室員の感想

弁護士といつても、普段どんな仕事をしているのか、具体的なイメージが湧かない人も多いと思います。このエクスターんシップにおいては、実際に弁護士事務所に行き、その仕事を体験することができます。具体的には、依頼人との打ち合わせに同席したり、裁判の傍聴をしたりするなど、座学だけでは経験できないものばかりです。このように真法会研究室には、実務へのイメージを明確にできる素晴らしい制度が整っています。



(4年 原口真緒)

年間行事 P8

合格実績

2020年度
司法試験合格者
15名

2020年度
予備試験合格者
2名

法科大学院合格実績

私立

中央大学 14名(全免4名 半免10名)
慶應義塾大学 9名
早稲田大学 3名(半免1名)

国立

東京大学 7名
神戸大学 1名

法科大学院合格者の声

酒井葵(法学部法律学科卒業)



東京大学法科大学院(進学先)
他、
中央大学(半額免除)
慶應義塾大学
合格！

中山夏帆(法学部法律学科卒業)



東京大学法科大学院(進学先)
他、
中央大学(全額免除)
慶應義塾大学
合格！

私の大学生活を振り返ると、多くの時を真法会研究室で過ごしていました。そうはいっても、四六時中机に向かっていたわけではありません。先輩・同期・後輩と共に研で話したり、食事をしたり、時には遠出したり――真法会には縦横の強い繋がりがあります。

私たちはコロナ禍で受験を迎えることとなり、下宿先で一人机に向かいながら、不安や焦りに頭を抱えることもありました。しかし、卒業後も質問や相談に親身に応えてくださった先輩、共に励まし支え合った同期、応援してくれた後輩、多くの「人」に支えられて受験を乗り切ることができました。対面して会うことが難しい中でも、縦横の強い繋がりを改めて実感することのできた一年でした。

真法会研究室での出逢いは、私の生涯の財産になると確信しています。真法会研究室で皆さんと出逢えることを楽しみにしています。

実務家からのメッセージ

(弁護士)

私は、現在東京で企業法務を中心に扱う弁護士として働き、忙しくも充実した日々を送っています。真法会に入室して感じたことは、将来の選択肢が増えるということです。法曹に早くなりたいと思えば、優秀な講師や先輩、同期とともに切磋琢磨し合いながら、試験勉強に励むことができます。学部生で司法試験に合格している先輩もいるので、1人よりも圧倒的に効率よく勉強をすることができます。また、同期の友人達と共に遊び、様々な先輩から貴重なお話を聞くことで、大学生活を充実させることもできます。

また、仕事が始まってからは、学生の時に弁護士の先生とお話しすることで、外部からはどんな仕事をしているかも分かりにくい弁護士の世界に、馴染みやすくなっていることを実感しました。

感染症の影響で、色々と不安定な時期ですが、皆さんが真法会でかけがえのない仲間に出会えることを願っています! 入室を心よりお待ちしております。

(弁護士)

私は現在、都内の企業法務を中心に扱う法律事務所で働いております。働き始めて間もないピカピカの1年生弁護士ですが、夢であった弁護士として刺激的な日々を送っております。さて、私が真法会研究室に入室したのは2013年、8年も前ということになります。おぼろげな記憶ながらそのころを振り返ってみると、「研究室って何だろうか」「法律って難しいだろうな」などと思っており、決して将来をはじめに考えるような優秀な学生ではありませんでした。おそらくこのパンフレットを読んでいる皆さんも同じような考えの人が少なからずいると思います(そうでない方には申し訳ないですが)。

しかし、その時の自分に、弁護士として働きだした今の自分から伝えたいことがあります。あの時、真法会研究室に入室してくれてありがとうございます。

難しいことを考える必要はありません。

皆さんも真法会研究室で人生を変えてみませんか。

(検察官)

私は、現在、さいたま地方検察庁で捜査や公判に関する仕事をしています。検事の仕事は、真実を解明し、法に則って被疑者に対して適切な処分を行うことです。適切な処分をするためには、被疑者だけでなく、被害者、事件関係者とよく話して、具体的な状況を想像し、その上で警察に対して補充捜査を指示して、協力して捜査を行います。真法会研究室では、協力して研究室の運営をしたり、長い受験勉強を乗り越えたりすることで、学問の研鑽のみならず、人格の陶冶も目標にしています。

現在私が行っている上記の仕事は、真法会で培った力をフル活用するものだと思います。真法会研究室では、検察庁見学等のイベントや先輩方との交流を通じて、理想の検事像を模索しながら勉強でき、現に、私を含め同学年からは5名の検事を輩出しております。

皆様が真法会研究室で有意義な学生生活を送られることを祈っています。

(裁判官)

私は現在、東京地方裁判所において刑事裁判官として働いております。東京では、事件数の多さもさることながら、ニュース報道されるような重大事件や著名事件も頻繁にあり、日々大きな責任とやりがいを感じながら、業務に励んでいます。真法会では、実務家、司法試験合格者、ロースクール生など様々な立場の先輩方と交流できる機会が数多く設けられており、諸先輩方の成功体験を踏まえ、自己の将来のビジョンを描きやすい環境にあります。また、切磋琢磨できる同期と日々の研究室生活を過ごすことは非常に刺激的で、勉学へのモチベーション維持にもつながり、現に私は学部4年生時に予備試験に合格することができました。新入生の皆様には、ぜひ真法会に入会いただき、有意義な学生生活を過ごしていただければと思います。いつか、実務に出られた際にお会いできることを待ちにしております。

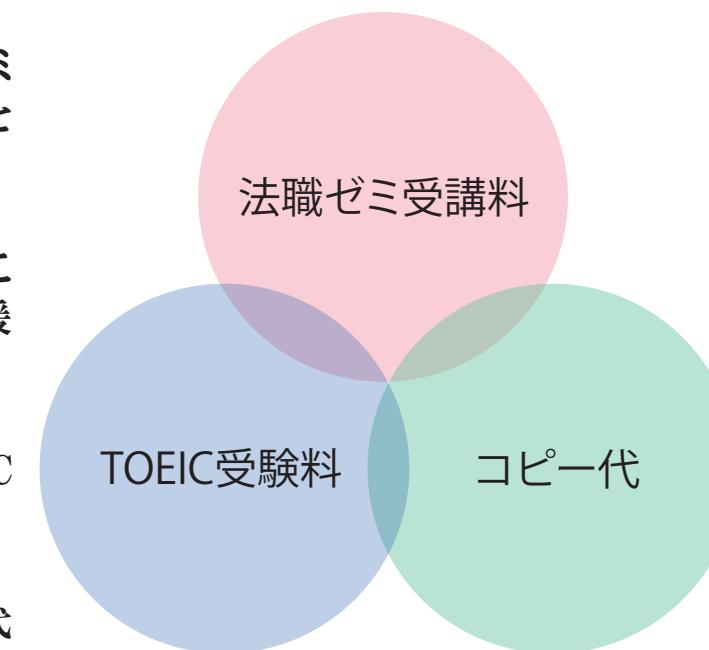
経済的バックアップ

法律学習のためには、法職多摩研究室のゼミ受講料、法職答案練習会の受験料など、何かとお金がかかります。

そこで、経済的な事情で学習の機会を逃すことがないように、これらの受験料の半額程度を援助しています。

また、法科大学院受験や就職に必要なTOEIC受験料についても半額援助を行っています。

さらに、研究室内のコピーライタは通常のコピーライタの半額である1枚5円となっています。



法曹志望者以外の支援

真法会研究室は法曹志望者への支援はもちろんのこと、公務員や民間企業を志望する室員への支援も行っています。

実業友の会

実業友の会とは、主に公務員や民間企業などで活躍する真法会研究室の卒業生により運営される団体です。

実業友の会では、公務員や民間企業への就職を志す室員に対し、多方面で活躍している先輩方による進路指導や、エントリーシートの添削、模擬面接などの就職支援を行っています。

前田桜子(法学部法律学科卒業)



【就職先】
アクセンチュア株式会社

私は、今年度から外資系企業でビジネスコンサルタントとして働いています。

入学当初、当研究室で得られる法律の知識と、多業界でのネットワークに惹かれ、その門戸を叩きました。

多様な研究室行事を通して、通常学生は出会えないような多業界でご活躍されている先輩方と実際にお話しできたことで、自分が将来やりたいことを深く考え直し、見つけることができました。法律研究室ですから、やはり法曹を志す室員が多いですが、その中でも私の夢を応援して下さる先輩方、同期、後輩に支えられ、自分なりの夢への一歩を踏み出せたと実感しています。とりわけ、就職活動の際には、実業友の会の先輩方に模擬面接やOBのご紹介をして頂けたことで、自身の志望する業界への就職を叶えることができました。

今、こうしてパンフレットを眺めながら入室に逡巡しているあなたも、ぜひ真法会研究室に入室して、室員とともにあなたの夢への一歩を踏み出してみませんか？

入室試験要綱

応募資格
募集人員

本学1・2年生(学部学科不問)
1・2年生(計20人程度)

一次試験… 5月29日(土)

▶ 筆記試験

二次試験… 6月6日(日)

▶ 面接試験

対面新歓のご案内
4月9,10日に実施される
大学内ペデストリアンデッキ下
での出店に
是非お越しください！

※一次試験を受験される方は、念のため 6月6日(日) は予定を一日中開けておくようにしてください。
※詳しくは別紙をご参照ください。

詳しい試験情報、応募方法については、

真法会ホームページ又は公式LINE、公式Twitterをご参照ください。

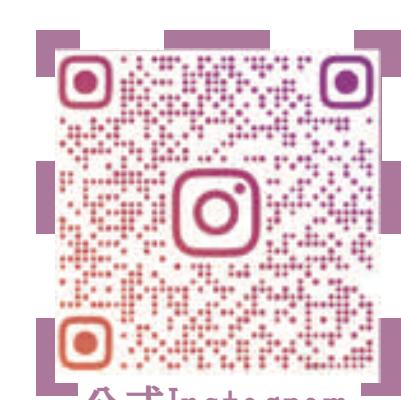
そのほか、オンライン説明会や質問会等の新歓に関する情報も更新しています！



公式LINE



公式Twitter



公式Instagram

あとがき

このパンフレットを手にして読んでいる皆さんには、司法試験や法曹という職業に少なからず興味があるということでしょう。しかし、そのためにはどうすればいいのかわからず、漠然とした不安を感じている方もいるのではないでしょうか。

真法会研究室には、学年を超えて日々語り合い、お互いを高めあうことのできる仲間がいます。ゼミはもちろん、自学自習という面においても肩を並べて共に学ぶことのできる仲間の存在は大きな力となります。

また、真法会研究室では実務家の先生方と交流し、その仕事を間近で見る機会も数多くあります。実務を知ることは、自身の将来像をより明確化し、学習意欲を高めていく上で不可欠です。机に向かうだけでなく、在学中から法律実務に触れる能够性は、多くの先輩法律家との強いつながりを持つ真法会研究室の特色の一つです。



真法会研究室の最大の特徴である強い「縦のつながり」と「横のつながり」はみなさんの法曹への道筋を照らす助けとなり、また一生の財産となるでしょう。

みなさんが真法会研究室の一員となり、ともに切磋琢磨する日が来るなどを室員一同心待ちにしています。

Thank you for reading !